

令和4年度（2022年度）第2回伊丹市立総合教育センター運営協議会協議内容まとめ

日 時 令和5年（2023年）2月6日（月）
場 所 伊丹市立総合教育センター 2階研修室
委 員 深野 康久委員（会長）、村上 順一委員（副会長）上田 幸治委員、
藤本 若菜委員、垣内 修委員、米田 博一委員、久田 浩嗣委員、
西本 大和委員、馬場 一憲委員、廣重 久美子委員
事務局 永嶺 香織、奥野 隆哉、戸田 征男、中田 智継、長谷 慎一、
増田 康児、片岡 栄二郎

- 1 総合教育センター所長あいさつ
- 2 会長あいさつ
- 3 議事

（1）令和4年度の事業体系報告

・【Ⅰ研修】

ライフステージ専門研修、教育課題対応研修そして、啓発研修。授業力向上支援センターの運営を行ってきた。それぞれ、国の動向や伊丹市の課題、特に学習指導要領の改訂による授業改善の視点に立ったICTの活用など、を中心に研修を行ってきた。

ライフステージ研修では、事例研修を取り入れて、受講者が主体的に取り組む実践的な研修を実施するよう工夫を重ねてきた。

・【Ⅱ調査研究】

三つの分野に関する調査研究に取り組んだ。調査研究を通して、伊丹の課題を改めて把握するとともに、それぞれの調査において、具体的な方策を検討し、学校支援に役立てた。

・【Ⅲ教育の情報化】

令和3年度の調査だが、文部科学省の学校における教育の情報化の実態等に関する調査で「授業中にICTを活用して指導できる」という項目がある。「できる」「ややできる」と答えた教員が、国が75.3%に対して伊丹市は88.1%であった。授業の中で一生懸命試行錯誤しながら使っていることがわかる結果である。

また、全国学力学習状況調査の今年度の結果において、「これまで受けた授業でPCやタブレットのICT機器をどの程度使用したか」という質問に対し「週3日以上使っている」と回答した割合が、小学校6年生は全国が58.2に対し伊丹が78.1、中学校3年生は全国が50.9に対し、伊丹が84.7と、全国を大きく上回る結果になった。

子どもたちが授業で使っていると答えるというのは本当に生の声だと思う。これはICTを導入した結果として、大変うれしい結果だと思っている。また今年度はAIを搭載したデジタルドリル教材なども導入したので、個に応じた学習にも力を入れてやってきたところである。

・【Ⅳ教育相談】

相談内容が多様化しているので、相談員のスキル、資質向上を図りながら、また関係機関と連携をしながら、取り組んでいる。

・【Ⅴ不登校児童生徒の学校復帰支援】

教育支援センターやまびこの運営と、家庭訪問型のメンタルフレンドの派遣を通して、不登校や自宅に閉じこもっている子どもたち一人一人に寄り添って支援を進めているところである。

今年度は受け入れ学年を、小学校4年生からだったところを小学校1年生からに拡大し

たということで、小学校のカリキュラムを見直しながら、運営をしてきたところである。

(2) 令和5年度の事業体系(案)について

令和5年度の事業体系の案だが、まず、4年度からの変更点が二つある。

一つ目、教育課題対応研修において、これまで実施してきたキャリア教育研修講座があったが、それを生徒指導対応力向上研修に含み、キャリア発達を踏まえた生徒指導研修として見直しを図った。

二つ目、教育の情報化の情報活用能力育成の中に、プログラミング教育研修を行っていたが、これについても、授業力向上講座において、ICTを活用した授業づくりという講座を設けているので、そちらと合わせて充実させるということで、見直しを行った案である。いろいろなご意見を頂戴したい。

(3) 事業別令和4年度の成果と課題について

I 研修

「職務研修・一般研修、授業力向上(カリキュラム)支援センター」についての説明

II 調査研究

「校内研究の活性化に向けた支援のあり方、授業におけるタブレット活用研究、教育支援センターにおける効果的な支援」について説明

〈質疑①〉

ICTの活用、授業で活用している割合が、全国状況に比べて相当高い。伊丹市はICTへの取組がしっかりしている。他の学校や教育委員会も回っているが、コロナが終わればもうICTの活用ではなくチョークでの授業に戻る、という意見も聞いており驚いている。一方で伊丹はどうかという全国的に見て、高い意識で進めていると感じている。

また特に若い先生方の研修で、先ほどニーズが多様化しているという話があったが、具体的にイメージを教えてください。

〈回答①〉

今学校で同じ学年で若い先生方同士で担任をしていることが多いと感じている。その中で授業力もちろんであるが、学級経営をどうしていくか、子どもたちにどう関わったらいいかといった内容も、これから授業改善のベースとして必要になってきているということを感じている。

今年度、授業づくりの前に学級づくりの講座を実施し、また、教育フォーラムで、協働的な学びをするための学級づくりについての講座を実施したが、そのような内容も今後必要になってくると考えている。

III 教育の情報化について説明

〈質疑①〉

市で一人一台タブレットを配布されているので進めているが、持ち帰りを進める中、授業をするときに、生徒が忘れたということがあり、せっかくタブレットを使って授業しようと思っても、そのタブレットを忘れた生徒が授業を受けられない、そのことも想定しながら授業の支援という中で、紙でプリントを作って使わせている。他の先生方からも意見をもらっているが、二度手間になってしまう部分がある。今1人1台だが、各教室に二つか三つは予備があれば、充電も忘れていたというときも含め、授業でタブレットを使わせてあげたくても使わせてあげられないという状況が出るので、予備があれば、すごくありがたいと思うがいかがか。

〈回答①〉

予備機については限りがある中で学校の規模に応じて配布しているところである。できる限り渡すことができればと思う反面、故障等もあった際には、子どもは使えないということがないよう、すぐ配備できるように、ストックを確保しながら、学校に配布させてもらっているので、現状今のような形になっている。ご理解願いたい。また充電に関しては、充電保管庫がある。そういうものを使いながら、お願いできればと思っている。

Ⅳ 教育相談について説明

Ⅴ 不登校児童生徒の学校復帰支援について説明

(4) 令和4年度の重点目標について

Ⅰ 研修

「職務研修・一般研修、授業力向上（カリキュラム）支援センター」についての説明

Ⅱ 調査研究

「校内研究の活性化に向けた支援のあり方、授業におけるタブレット活用研究、教育支援センターにおける効果的な支援」について説明

〈質疑①〉

教員の研修制度について、県や市町村、また総合教育センターとしては、質的充実と量的充実についての方向性や、特に県は、例えば何時間増やすといった話は、出ているか。

〈回答①〉

現在の状況では、今質問があったように量的なもので何か県が示しているというものはない。ただ、県教育委員会で、資質向上のための指標はおそらくこの制度になって検討されると思う。そちらが出てくれば今度は質の部分の市町での検討が必要ではないかと思っている。

Ⅲ 教育の情報化について説明

〈質疑①〉

研修について、初任者と話をしていると「この働き方ではずっと働くことができない」と言っていた。今研修の中にワークライフバランスを考えるような研修が実施されているかどうかを教えていただきたいとともに、実施していないのであればやっていただけたら嬉しいと思う。

〈回答①〉

ワークライフバランス研修の実施について、県でも年間を通して研修を実施している内容を確認しながら、市でもできることはないかということ、今後検討したいと思う。

〈質疑②〉

センターのコンテンツの充実という話があったと思うが、若い先生たちに聞くと、今、本は読まないそうで、インスタグラムを見て授業に関する情報を得ている。時代が変わったと思っているので、そういったことへのアプローチも何かあればいいと思う。

〈回答②〉

コンテンツの充実という点に関して、インスタグラム等という話もあったが、書籍に関しても一層充実させてワーキングスペースの活用についての呼びかけは今後も行っていく。情報の集め方に変容が見られるが、ザッピングになってしまうという心配もある。また情報の信

憑性という観点では、支援を行う側から見てみると、危ないところもある。それに対して本というのはある一定のまとめがされたものになっているので、そこから得られるものは、やはりインターネット等で入手した情報とは違ったものだと考えている。

そういったことも実感してもらった上で、支援等を受けてもらうということが理想かと考えている。

IV 教育相談について説明

V 不登校児童生徒の学校復帰支援について説明

〈質疑①〉

学校現場から見ていて、不登校の児童生徒が全国的に非常に増えているという中で、様々な要因がある。教育相談でもお世話になっているが、ネグレクト等保護者の抱える悩みを含め、不登校の理由も多様化している。先ほど報告のあった相談体制の構築と、関係機関との連携の中に、学校教育部ではないが愛護センターとの連携があるとより良いと思うがいかがか。

〈回答①〉

関係機関の中には愛護センターも入っている。今後も児童生徒のことや不登校の防止等について連携を図っていきたいと考えている。

〈質疑②〉

総合教育センターの研修、授業力向上支援について、対象の校種はどの範囲を指しているのか。小学校中学校はすごく、充実していると思うが、市立の学校園ということで、市立伊丹高校や幼稚園も入っているか。幼児教育センターで実施する研修との住み分けや、高校であれば県教育委員会が実施する研修に参加しているか、研修と授業力向上支援の活動報告に明記がないので、そこが気になっているがどうか。

〈回答②-1〉

研修について、確かに小中学校に關係する講座が多いと思っている。幼稚園では、幼児教育センターがあるのでそちらでも研修されているというところもある、ただ内容によって、例えば特別支援等の研修については幼・こども園にも案内を出し、実際今年も数は多くはないが参加していただいている。高校も含め今後についてはまだ検討していく必要があると思っている。

〈回答②-2〉

総合教育センターが行う講座については、内容を鑑みて幼稚園、小中高等学校すべてに案内は出した上で選択していただいている。特に夏の研修は、高等学校にも案内はしているところである。

高等学校については、県から直接学校に案内が届く場合があるが、県立教育研修所の研修を高等学校の申し込みを総合教育センターから一緒にしていく中で、高等学校の先生がどんな研修に出ているのかということは、こちらでも把握しているところである。

以前幼児教育センターができたときに、研修や経年研修の実施主体を決定し、進めているところである。進めるにあたり、また改善が必要であれば、関係各課と調整していきたいと思っている。

〈意見①〉

先ほど他の委員からありがたい意見をいただいた。今、幼児教育センターと総合教育センターで研修の住み分けがあり、主に幼児教育センターの研修に参加している。第1回でお伝えしたが、自分自身教頭になった時にトップリーダー研修に参加し、ほかの先生方と語り合ったことが勉強になったと今も感じている。就学前施設ではどの園も人材不足で、先生たちが疲れている状

況がある。そんな中で保育の質が低下するのではないかと懸念していて、先生たちが元気になるような研修ができたらいいのではないかと思ったときに、就学前施設の先生たち同士で話していても、埒が明かなかったり、沼に入ったりすることがすごくあり、そんな時に違う観点、例えば小学校や中学校、高校の先生から、長い目で見るとこうだとか、そういう意見をいただくと、光が見えるということが私自身あったので、キャリアや施設関係なく、同じ伊丹の子どもを育てていくということを目標に、何か語り合いたい。切り口は主体性など様々なものが考えられると思うので、そのような研修が今後できたらいいと思う。

〈意見②〉

日頃より、伊丹市の教育方針の中で、伊丹は幼児教育から大事にしており、幼小中高と一貫した繋がりが大事だということで、研修や授業力向上、教育相談で同じ伊丹市の子どもを、育てていくという視点でいけば、うれしいと思う。

〈意見③〉

研修について、学級づくりのことに悩んでいる先生が多いのではという話があったが、まさに若い先生が学級づくりや日々の授業をどのように子どもにわかりやすく楽しくやっていくかということが、悩んでいるところだと思う。今求められている資質、目の前の授業、先生が子どもにどう対応していくか、本当に目の前の事と両輪で研修をさらに充実させていただけたらいいと思う。

授業マイスターの「今更聞けない授業のイロハ」のような研修が、若い先生にとっては重要だとか、特別支援教育研修の参加が多いのを見ると、こういったテーマで悩んでいる先生が多いのかと思うので、両輪でお願いできたらと思う。

研修日程については夏休みが比較的多いと思うが、8月16日あたりはまず参加できる先生が少ないと思っている。講師の先生の都合もあると思うが、平日休んでおらず夏休みにまとめて休みを取るといった状況が小学校ではあるので、学校の研修との兼ね合い等調整していただいて、行きやすい時期にさせていただけるともっと良いと思う。

情報のことで、デジタルドリルが入って本当によかったと思っている。実際にどうやって学力をつけるために利用していけるかが、今からの課題だと思っている。ただ子どもにやらせるということではなく、どのように子どもたちが主体的に取り組んで、学力向上に繋がっていくか協議できたらと思っている。学校でも考えていけないといけませんが、デジタルのことでわからないこともあるので教えていただけたら嬉しいと思っている。

〈意見④〉

総合教育センターの方々には大変お世話になっている。報告を見ても仕事量が莫大になっていると思う。学校現場でも同様に多くの仕事がある。その辺りの改善しなければならないと思っているのでまた相談させてほしい。

〈意見⑤〉

情報モラル研修の実施について、自分は生徒指導を担当しているが、事案における SNS の利用で、年配の先生方から DM やストーリーとは何かと質問を受けることが多い。全体の職員研修等で話しているが、具体的に今子どもたちがどういったことでアプリを使っていて、どのようなやりとりをしているのかかというところも、研修でしていただけたらと思っている。

〈意見⑥〉

それぞれの課題、研修等における課題が PTA で懇談会をしたときのテーマによく上がるようなテーマなので保護者としても、特に注目しているところだと思う。

例えば ICT モラルは全員に端末を配って 2 年目 3 年目になってくると子どもたちも様々な知恵がついてくると思うので、教員も子どもたちに負けないぐらいの研修を、考えていただければと思う。

〈意見⑦〉

総合教育センターが、条例にあるように本市の教育の総合的な向上を図るという大きな目標に向かって頑張っており、そういった意味でこのようなすごいボリュームの業務になるということを改めて認識させてもらった。特に限られた財源と人数の中でやりくりしながら一生懸命やっているということを日々感じている。

教育総務部としても、少しでもマンパワーが保証できるような形ができればと考えている。これからも一緒に教育を向上させていけるように、頑張りたいと思う。

〈意見⑧〉

今学び続けるということで教師の研修に焦点が当たっているが、それだけではなく、調査研究、ICT、教育相談、不登校支援、それぞれに教員、それから子どもたちのために、支援できるよう充実を図っていきたいと思っているので、今日だけではなく今後ともよろしく願います。

4 副会長あいさつ